



衣鉢相伝



写真： 二十世紀梨・・・二十世紀(にじっせいき)は青梨系の代表品種で、鳥取県産梨の8割を占める。1898年に、来たる新世紀(二十世紀)における代表的品種になるであろうとの観測と願望を込めて命名された。その後、1904年に鳥取県に導入され鳥取県の特産品となった。花は鳥取県の県花に指定されている。

2007年度
(社)鳥取青年会議所
広報誌 8月号

因幡

INNOVA [ina:va]
変革

鳥取青年会議所 検索
URL <http://torijc.main.jp>
E-mail torijc@hal.ne.jp

八月 理事長挨拶
理事長 安陪 幸伸

今年の夏はラニーニヤ現象の影響で猛暑になると予報では言われていましたが、梅雨明けが例年より少し遅く七月の中頃でした。振り返ってみてもさほど暑かった様には記憶していませんでしたが、ここにきて一気に酷暑がきたように感じています。

さて青年会議所活動も、お盆休みの八月はさほど目立った活動はしないのが恒例でしたが、今年はずいぶん違います。鳥取しゃんしゃん祭への因幡市民連の参加、「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会、そして会員の全体研修会と事業の目白押しです。

鳥取しゃんしゃん祭への参加では市民と共に因幡の文化である傘踊りをして一体感を感じさせてくださいました。祭りの盛り上がりや因幡の盛り上がりにつながり、そしてこのまちの活性化につながっていくと信じております。

「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会は原稿不切の関係で書いていた現在ではまだ開催されていませんが、楽しみな事業の一つです。北川先生のご講演もですが、なんとと言っても市民の手により市長のマニフェストが評価されるわけです。ある意味、二期目をむかえ目標として掲げた市長マニフェストに対して、現状の市長の仕事振りや職員の仕事振りの評価になる大会です。個人的には学生時代の一学期終了時にももらえる通信簿のような感覚を持っていますが、ワクワク・ドキドキしながら、この大会が市民の参政意識の向上につながればと思っています。

そして、全体研修会は会員の資質の向上につながればと思っております。自己研鑽・自己修練・自分を成長させまた高め、今後の青年会議所活動につながるものとなればと思っております。

今年の八月は気候的にもそして青年会議所の活動的にも熱い年です。今年半ばも過ぎましたがまだまだ事業にそして日々の活動にと頑張つて参ります。ご声援よろしく願っています。

2007年度 日本JCスローガン 「日本の力」発信! 理想国家日本の創造に向けて!

2007年度 鳥取JCスローガン 目標を見定め「我」実行せん!

■ まちづくりの仲間紹介 ■

毎月、鳥取県東部で活躍されているまちづくり団体をご紹介します
＜ 鳥取砂丘と東部広域観光を考える100人会 ＞

前鳥大乾燥地研究センター長の竹内先生を理事長に理事会を置き、「砂丘再生」「ランドデザイン」「文化観光」の3部会で活動しています。砂丘再生部会では夏場早朝の草取り、ランドデザイン部会では砂丘の未来・あるべき姿を議論し、文化観光部会では年々減少を続ける観光客の対策を考え行動しようとして努力しています。

【お問合せ先】 鳥取市吉方温泉町3-852 熊田ビル
Tel:(0857)22-3333 E-mail:kumada@soleil.ocn.ne.jp

※ 事業開催のお知らせ ※

きんさい因幡 鳥取自動車道に乗ってin 加西

●開催日時 2007年9月16日(日)～17日(月)
AM10:00～PM5:00

●開催場所 中国縦貫自動車道
加西上りサービスエリア内

●事業目的 幅広い高速道利用者に鳥取自動車道の開通を情報発信するとともに因幡地域の情報と魅力を発信する。また、鳥取自動車道開通に向けての因幡地域内の意識啓発に繋げる。

●事業内容

- ・鳥取自動車道パンフレットの配布
- ・鳥取自動車道開通によるマップ等を掲載したパンフレットを配布し鳥取自動車道と因幡地域の情報発信を行う
- ・パネル展示と鳥取砂丘のミニチュアの展示
- ・鳥取自動車道と鳥取砂丘の大型パネルを展示し視覚的効果を与える。また鳥取砂丘のミニチュアを作成展示し鳥取砂丘の情報発信を行う。
- ・シールアンケートの実施
- ・簡単なアンケートを短時間で済ますためシールアンケートという手法を用い意識付けにつなげるとともに問題点情報のニーズを抽出する。
- ・水産物・農産物の販売
- ・地域の魅力の一つでもある食材を季節の旬のものを中心に販売を行うことで因幡地域を食の面で発信する。
- ・パンフレットの県内外への設置・配布
- ・パンフレットを県内外の施設へ置くことで、より多くの人に鳥取自動車道と因幡の魅力を発信し認知度を高める。

2008年度 (社)鳥取青年会議所 [第50代]理事長予定者決定!

JCにおける履歴

2002年 前期入会 第二事業委員会 委員

2003年 地域間交流推進委員会 委員

鳥取ブロック(協)価値が輝く人づくり委員会 委員

2004年 地域間交流委員会 副委員長

2005年 総務委員会 委員長

2006年 専務理事

2007年 副理事長 (詳細はHPをご覧ください)



西垣 豪 君
東洋交通施設(株) 専務取締役

事業の御礼

マニフェスト型社会実現へ 「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会

特別委員会委員長 山根康徳

8月19日(日)鳥取市民会館において「鳥取市長マニフェスト」市民検証・評価大会が無事に開催されました。当日は天候に恵まれ、多数の方々にご来場いただきました。

第1部北川正恭氏の基調講演では「分権自立とマニフェスト」という演題で意識改革の必要性を述べられ、第2部に行われたマニフェスト評価委員と竹内市長のパネルディスカッションではマニフェストを分析し検証・評価を行いました。事業のテーマである「マニフェスト型社会の実現」に大きな一歩を踏み出したと確信しております。

最後に今回の事業にご参加・ご支援いただきました皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



＜ パネルディスカッションの様相 ＞



＜ 因幡市民連の参加者たち ＞

第43回鳥取しゃんしゃん祭 ～因幡市民連参加を終えて～

ふるさと発信委員会委員長 高藤大祐

地元の祭として今年で第43回を迎えたこの鳥取しゃんしゃん祭ですが、連としてグループでなければ参加できない祭というイメージになっているのではないかと日々感じていました。地元の祭りとしてもっと定着していく為に、自由参加型の祭として、今まで見ていた方も自由に参加できるようになって欲しいと願い企画しました。各種媒体などを使い募集をしたところ、参加された方の約9割が初めての方でした。練習にもみなさん熱心に参加され、その上達ぶりは予定の練習日程が余ってしまうほどでした。本番当日は、希望者のみではありましたがそろいのTシャツで最後尾スタート、観客の視線を一斉に浴びて思い切り踊ることが出来ました。今回、練習から本番当日まで沢山のみなさんに支えられ無事に終えることが出来ました。ご協力くださいました多くの皆様がこの場をお借り致しましてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

◆ 今月の表題 ◆

「衣鉢相伝」・・・いはつそうでん
法灯を継ぐ。また、弟子が師の教え、道を伝えるたとえ。衣は袈裟、鉢は托鉢。師匠の道を受け継ぐ場合、広く「衣鉢を継ぐ」という。参照・・・「四字熟語」これだけ辞典

鳥取自動車道の概要と効果

兵庫県姫路市を起点とし、岡山県美作市を経由し鳥取県鳥取市に至る延長約86キロの高速自動車道を中国横断自動車道姫路鳥取線といいます。

この路線は、山陽・山陰及び中国地方の山地沿いの地域を山陽自動車道・中国縦貫自動車道と連結しながら一体的に結び、輸送時間の短縮、沿線地域の産業や経済・生活・文化の発展を図ることを目的として計画されています。

道路はあくまでもインフラ

整備されたその道をどのように使うかが一番問題で、何も活用方法について議論しなければ、市民の多くが県外に買い物に行くだけになってしまいます。いかに多くの県外の方々にこの因幡エリアに来ていただくのかを考えなければなりません。

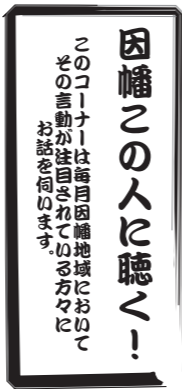
鳥取自動車道について考える

(社)鳥取青年会議所の取り組み

私たち(社)鳥取青年会議所は、永年にわたり鳥取自動車道の開通に向けて様々な取り組みを行ってまいりました。行政や他の民間組織にも先駆け国に対して陳情を行い、また開通後の魅力の発掘・発信、広域連携の重要性について行政機関や市民の方々に訴えかけました。

私たちの考え

「この地域が輝く大きなチャンス！」この鳥取自動車道開通により関西圏・山陽方面への移動時間は短縮され、観光を始め企業誘致や農水産物の物流など、地域経済の活性化により大きな期待がもたれています。



テーマ「鳥取自動車道の開通を目前にして」
榎瀧本塗工店専務取締役 瀧本 覚氏
1997年度(社)鳥取青年会議所副理事長
2005年度鳥取商工会議所青年部会長
2005年鳥取しゃんしゃん祭振興会副会長
2009鳥取・因幡の祭典実行委員会委員長
鳥取市観光協会理事

安陪 瀧本さんは今まで多くの公職をされています。今は2009鳥取・因幡の祭典実行委員会委員長でいらつしやいますが、私たちJCメンバーにとっては先輩でもいらつしやいます。現役時代には鳥取自動車道の推進に関わってこられたと思いますので、そのあたりも踏まえて本日はお話をさせていただけたらと思います。まずは開通を目の前にしてどのような思いでおられますか。

瀧本 私は1995年千村理事長の時に第1政策委員会委員長を務めさせて頂き、建設省と官房長官に陳情をしました。また但馬地域との交流を始めたのもこの年です。因幡だけではなく広域で連携しようということでした。山陰線沿線で30人の各地理事長を集めたりしました。豊岡・宮津との連携で「ガサスの郷構想」を打ち出し、震災が契機となり2つの路線の必要性を伝えていったのです。まずは勉強会からはじめ、広域連携での取り組みを進めていきました。そこから施工命令があり、翌年の新年祝賀会の際に当時の西尾知事から「JC万歳」との言葉まで頂く位評価されました。当時は「自動車道のこと」はJCに聞け！とまで言われていました。今回、因幡の祭典で声がかかったのは何かの縁かなと思います。私は鳥取自動車道やまちづくりに関しては10年に渡る思いがあります。

広域連携の重要性

一つの売りで地域のPRをするのではなく、各地の色々な良い点をつなげて活用することが大切です。自分たちの一部のメリットだけでなく取り組みをすることでかえって魅力はチープになる場合もあります。各地が利点を活かしながら協力していくことが必要です。また県外の方々のニーズも探らなければなりません。

経済的懸念と創造

まずは消費者が関西圏に行ってしまう懸念があり、おそらく5%位の経済的流出があると言われています。金額にすれば100億円位です。また道路が出来ると全国にネットワークが広がる、低コストで物が入ってくるようになります。しかし対応の仕方で影響を減らすことは可能です。それには新しい視点で新しい取り組みをしていけばいいのです。高速道路の開通は良い契機になるのではないのでしょうか。

しかし、道路の開通はインフラ整備であり、開通したことで劇的な変化は望みません。どのように地域が主体的に取り組みむのかにより大きく効果が変化すると思われれます。鳥取自動車道は、山陰・通じる道路、米子自動車道・浜田自動車道にはない通行料無料という利点があります。この利点を地域外の人々へ情報発信し、山陰観光また山陰への移動の入口としての活用を提示していかなければなりません。そしてこの道路を活用し因幡地域への来訪者が増加することが、地域の発展につながりまた様々な地域、人々との新たな交流が生まれるものと考えます。

瀧本 こうして後輩のJCメンバーが新たな自動車道に関しての動きをしているのがうれしいですね。因幡エリアでまとまらなければせっかくの自動車道が輝かないと思います。間違いないくストロー現象になりますよ。商工会議所青年部でも、広域連合をしていこう、まちを変えていこう、まちおこしをしていこうと訴えています。

安陪 先輩が活動をされていたのはまだ自動車道の計画が具体的では無い時代ですから大変だったと思います。この度いよいよ2年後に開通します。因幡が広域で連携しなければならぬです。因幡の各地から集まった総勢114名の実行委員一丸となって取り組みます。

瀧本 因幡の祭典は打ち上げ花火ではないのです。単発の取り組みではなく、イベントありきでもありません。私は「ひとおこし」だと考えています。市民がどのような考えを持ったなければならぬかということを伝えていきたいのです。今年まではホップで来年はステップ。3段階です。まずは住民参加の意識向上が大切です。危機感を持った人達が地域を創ると思います。誰かがきっかけを作っていかねばならない。そのための祭典と考えています。因幡の各地から集まった総勢114名の実行委員一丸となって取り組みます。



《 瀧本 覚 氏 》

そしてこれから・・・

現在は様々な取り組みにおいて、個別にやっていくという傾向が多々みられます。これからは広域で連携し、一体化した実行をしていくことがなによりも大切です。

「2009鳥取・因幡の祭典」

鳥取自動車道が開通する2009年4月から翌年3月までの1年間を通じ、イベント、体験型観光、コンベンションで事業を構成。イベントでは実行委員会主催のオーブニングイベントを皮切りに、核となる鳥取砂丘や地域のイベントを連携させ、季節ごとや年間を通してキーワードに基づく内容で展開することとしています。

また、因幡地域の歴史や文化、観光資源を生かした周遊ルートの設定をはじめ、体験型メニューも造成。祭典を県内外に発信するため宣伝活動を強化するほか、県外客を誘導するための道路標識の整備や駐車場の確保、県東部の食の魅力アップと接客サービスの向上などを盛り込み、住民参加型の祭典とするため参加意識の醸成を目指すことにしています。実行委員会では基本計画を基に具体的な実施内容を詰めますが、地域住民・団体・企業などが主体となった継続性のある祭典として盛り上げることにしています。

詳しくは・・・

2009鳥取・因幡の祭典実行委員会事務局
〒680-0841
鳥取県鳥取市吉方温泉3丁目701番地
TEL:0857-27-8001
FAX:0857-27-8018
E-mail:saien-2009@tottori-inaba.jp

瀧本 今後残していけるものとして、心に残すもの形に残すものとあります。これがしつかりと残れば因幡はまだまだ伸びていくはず。とにかくまずは連携が重要です。点と点が面になるということを実践していきま。各地域が互いに切磋琢磨して伸びていけば良いと思っています。自動車道を利用しようというところはみんな考えていくんだというのを誰かが言わなければならぬのです。リーダーシップを持って因幡に訴えていきたいですね。

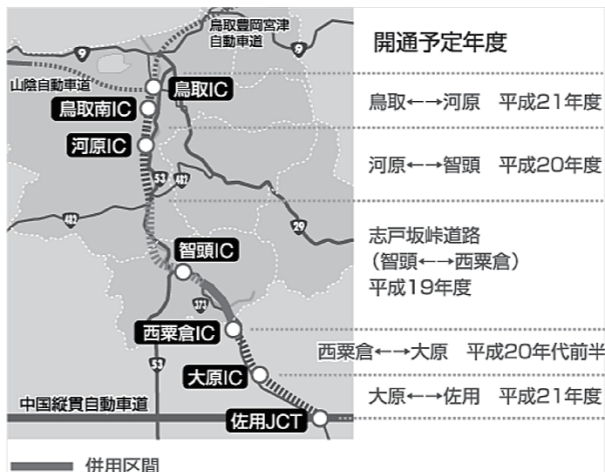
安陪 1市4町の連携がなにより大切です。

瀧本 そうです。JCが一昨年シーニックバイウェイ(景観を活かしたまちづくり)の取り組みをされました。地域の人がもつと絡めれば良かったと思います。地域主導で行政がついていくようにならないといけませんし、各地の意思統一もしなければなりません。

安陪 それに合わせて地域色を出すようにして、各地の長所を出し合うことで伸び合おうと思います。そうすれば全体でかなりのプラスになるし、補完もし合えて、得手不得手も補えますね。

瀧本 各行政機関は「自分たちの地域を守る」ということがまずあります。しかしそれと共に因幡エリア全体で足並みをそろえて相乗効果を図らなければなりません。あるものをそれぞれが連携しながら活かしていくんだという考えが必要です。地域の宝として長所を磨いていきたいですね。出来ることを出来る範囲で、2009年以降も続いていくようにしていかなければなりません。そういうコアデインターネットの仕組みづくりも考えながらやっています。

安陪 お話を聞いていますと瀧本さんは因幡のまちづくりコーディネーターでいらつしやると感じました。実行委員長ではなく調整役という感じでしょうか。因幡の発展のためにまちとまちを繋いでおられるのですね。



- 鳥取自動車道の各インターチェンジの名称は仮称です。鳥取自動車道開通予定年度は平成19年7月現在のものです。2009年、鳥取自動車道が開通すると以下のように所用時間が短縮されます。
- ★鳥取・岡山間…3時間00分→2時間30分 30分短縮
 - ★鳥取・姫路間…2時間30分→1時間40分 50分短縮
 - ★鳥取・大阪間…3時間20分→2時間30分 50分短縮

(参照:2009鳥取因幡の祭典HP <http://www.tottori-inaba.jp/>)



《 安陪幸伸 理事長 》

瀧本 そういう意識は持っています。ただ一人では出来ないことがあります。114名のメンバーと一緒に取り組んでいきます。それぞれがオピニオンリーダーとしてですね。これもひとつづくりです。鳥取砂丘は何もなくても人が集まりますし、ある程度お金も落ちていきます。しかし、これからは戦略的な着地型でないといけません。もっと商品開発もしなければなりません。高速道路が出来ると、しかも無料なので、もっと外から人に来ていたでして、そして色々なものを持って帰ってもらうことを考えなければなりません。そういった取り組み、観光商品開発といったらよいですかね、もっとしていかなければと思っています。JCがされたシーニックバイウェイの取り組みはものすごく可能性があると思いますよ。人まねや物まねで無く因幡らしさをもっと前面に出して続けていって欲しいと思います。

伝えること、魅せることは大切ですが、継続することも必要だと思えます。売り出し方も考えなければなりません。単年度で終わって欲しい良い事業、取り組みはせひまたやって欲しいですね。JCももっとひとづくりをしてまちづくりの思いのある仲間を増やして下さい。

安陪 私たちも個々がしっかりとしたビジョンを持って、活動してまいります。本日はありがとうございました。